

§ 1 0 グライスの「非自然的意味論」と「協調原理」

- 1、自然的意味と非自然的意味
- 2 「非自然的意味」が成立するための必要十分条件
- 3、グライスの意図による意味の説明と発語媒介行為
- 4 グライスの協調の原理

§ 1 1 コミュニケーションの不可避性と私的言語批判

- 1 協調原理による発語媒介行為とコミュニケーションの不可避性の説明
- 2、選択の不可避性について
- 3 私的言語と個人言語の不可能性とコミュニケーションの不可避性
- 4 規則遵守の問題とコミュニケーションの不可避性

先週ここまで

§ 1 2 社会構築の二種類の説明

1 「地位機能宣言発話」による社会制度の構築の説明

サールは、地位機能宣言発話によって地位機能の成立を説明する。地位機能は、集団的な承認によって成立する。集団的な承認は、共同コミットメントないし We 志向性によって成立する。サールは、We 志向性の成立を、約束をモデルにして説明する。つまり、集団的な承認を約束によって説明する。これは、国家の成立を人々の契約で説明する国家契約論と同じである。

ホッブズ、ロック、ルソー、プーフェンドルフ、カント、フィヒテなどの国家契約論は、近代的個人を前提して、個人間の契約によって国家の成立を説明し、国家を正当化するものである。しかし、国家は、近代的個人の登場以前から存在している。したがって、近代的国家は、近代的個人によってゼロからつくられたのではなくて、前近代の国家の改変によって生じたのであり、諸個人の契約によって生じたのではない。

2. 「協調の原理」による社会構築の説明

協調の原理によって発話の理解が成立する。しかも、協調の原理はそれを破ることがある意味を持ってしまうことになるので、何らかの意味の伝達を不可避なものにする。約束モデルで、社会制度の成立を説明しようとするときには、約束が成立しなければ、社会制度は成立しないというただそれだけのことであり、それ以上に何も生まれない。しかし、協調の原理が働いているところでは、約束が成立しないことは、敵意や軽視を伝達することになってしまう。それは当事者間の関係に変化を引き起こす。意図した行為の失敗は、別の関係を生み出してしまう。

協調の原理があるがゆえに、敵意が伝わってしまう。それを避けるには、何かをしなければならない、と考えるとき、すでに社会関係の構築が始まっている。

社会関係の構築は、無から生じるのではない。社会関係の構築は、常にすでにあるなんからの社会関係の変更として成立する。



ミニレポート課題

1、自然な人間関係でなく、かつ、契約にも基づかない人間関係や社会制度の例を挙げてください。



§ 1 3 資本主義と近代国家と近代科学

1、産業資本主義による伝統的共同体の解体と近代的個人の誕生

#資本主義の諸段階

(1) 市場と貨幣の誕生 市場の特性

市場では、商品と商品、あるいは商品と貨幣を交換する。そこでの取引には、その商品の品質と価格だけが考慮され、その所有者がどのような人物であるか、その商品がどこで誰によって作られたものか、そのようなことは考慮されない。この市場取引がさかんになるのは、貨幣によってである。貨幣は、それ通用することについての相互予期によって、成立する。

(2) 商業資本主義（貨幣の登場、市場の常設）

市場での商品取引で利益を得て生計を立てようとする人が、商人である。

(3) 産業資本主義（土地と労働力の商品化） 共同体社会の崩壊

資本主義とは、その市場の中に、生産物だけでなく、土地と労働力が商品として加わるということである。産業資本主義の時代とは、土地と労働力と原料生産物をつかって、商品生産が行われる時代である。

これによって、伝統的な共同体社会が崩壊し、所有個人主義が登場する。ここに市民的公共性が発生する。

#近代的個人の登場

- ・個人は、所有権を持つ契約主体の成立、人権の成立。
- ・個人がお金で解決できる個人問題の成立。

お金で、食糧や住居や衣服などを手に入れることができる、いいかえるとこれらのものが商品として提供されているとき、個人がお金によって解決できる問題となる。個人問題が登場する。

2、資本主義と近代科学

(1) なぜヨーロッパにだけ自然科学が誕生したのか？

#自由都市と公共性（公共圏）

公共性というのは、討議ないし活動のための共同の空間の性質、あるいは、そこでの討議や活動の性質である。したがって、そこでは、人々が出会うことが必要である。人々が

出会う場は、都市である。なぜ、村でなくて、都市であるのか、といえば、そこでは、人々は、市場で人々がであうときのように、個人として出会うからである。村では、人々は、〇〇の長男、××の末娘、などとして出会う。

これにたいして、市場では、その人がどのような商品をどのような値段で売なのか（あるいは買うのか）、ということだけが問題である。そこでは、個人は、かれが属する共同体とは無関係に、個人と個人の関係が生じる。討議や活動のための共同空間でも、重要なのは彼の発言内容であって、その人がどのような集団に属しているかではない。また、どのような動機から発言するのも重要ではない。公共空間の中で、発話は、誰によって話されるのかとは無関係に、その内容だけで判断される。

市場に参加する人間は、共同体の一員として参加するのではなく、単に一人の商品所有者として参加するのである。市場には、共同体の人間関係は持ち込まれない。市場での理性的な議論の形態が、文芸や学問や政治に持ち込まれるとき、公共圏が誕生する。

市場における契約主体の権利が、承認されなければ、契約の自由を正当化根拠とする市場メカニズムは、正当性を失う。

市場と公共性の類似性

①公開性：だれでも参加できる

商品あるいは貨幣さえもっていれば、市場にはだれでも参加できる。

②自由な交換：何でも交換できる。

何でも、売買できる。売春や奴隷売買や臓器売買さえ行われている。

③理性的な交換：交換を強制されることはない。

交換は、利害計算にもとづいて行なわれる。利潤の追求。

貨幣がコミュニケーションメディアとなる。

市民的公共性と批判的理性の登場

公開の自由で理性的な討論が行われるとき、そこでの批判や評価は、発言についてのものであるが、その発言は個人の責任でなされるので、そこでは個人が批判や評価を受けるといってよい。互いに批判しあう中で、他者の批判を内面化することによって、自己反省的、自己批判的な理性が誕生する。

近代科学は、自由に議論する科学者集団の成立、科学的公共性の成立によって誕生した。

「なぜ、ヨーロッパにだけ、近代自然科学が誕生したのか？」という問いに対する答えとして、現在有力なのは、ヨーロッパにおける市民的公共性の登場にその原因があるとする主張であり、市民的公共性は、市場主義、産業資本主義によって成立したという考えである。

(2) 資本主義と近代科学の類似性

- ・均質で無限な時間空間（ヒエラルキーの解消、無際限な欲望）
- ・定量的関係の重視（使用価値と交換価値、定性科学と定量科学）
- ・要素主義（原子論、個人主義）

#貨幣の3つの機能

価値尺度、交換手段、価値退蔵

#商品は使用価値と交換価値をもつ

人が、ある商品を手に入れることを欲求するのは、その商品の使用価値を手に入れることを欲求することである。商品を手に入れるには、お金が必要である。商品を手に入れたいたいという一階の欲求を実現するにはお金が必要である。お金を手に入れようとする欲求は、二階の意欲である。

#お金への欲望と二階の意欲

二階の意欲とは、「一階の欲求がその人の意志[実効的な欲求]になることへの欲求」あるいは、「一階の欲求を実現しようとする意欲」

#科学の3つの機能

現象の説明、現象の予測（技術への応用）、???

ミニレポート課題

1、自然な人間関係でなく、かつ、契約にも基づかない人間関係や社会制度の例を挙げてください。

2、「〇〇の3つの機能」を考えてください。

「〇〇の3つの機能は何か？」という問題設定は、多くの場合大変有用で、発見的です。そこで、例えば、次のように、何かの3つの機能を説明してください。

推論の3つの機能 ①知識の獲得 ②知識の整理 ③知識の正当化

言語の3つの機能 ①情報の明確化 ②情報の伝達 ③情報の共有・蓄積・保存

行為の3つの機能 ①欲求の実現 ②状況の変革 ③危険の回避

道徳の3つの機能 ①他者との共生 ②共同体の秩序維持 ③個人や共同体の自己同一性の確保

法律の3つの機能 ①個人間の利害調整 ②個人と共同体の行為調整 ③社会システムの維持

歴史の3つの機能 ①未来への教訓 ②現在の理解を構成すること ③過去と未来の他者と共有

例えば、

家具の3つの機能は何か？

カバンの3つの機能はなにか？

道路の3つの機能は何か？

国家の3つの機能は何か？

芸術の3つの機能は何か？

3、今日の講義内容に関連して、あなたにとって新しい哲学的な問いを立ててください。

=====